



(2月10日開催「人権を考える市民のつどい」)

目次

- 特集インターネットと人権侵害 2～3
- 第11期市民人権講座修了者一覧 ... 15
- 男女共同参画に関する意識調査の結果からみえてくること ... 4～5
- 市同教の活動ほか 16～17
- 中学生人権作文 6～9
- 企人教の活動 18
- 小中学校人権教育講演会 10～11
- 幼児期人権教育事業 19
- 園児らの共同作品 12～14
- 新着DVDのご紹介 20

「士農工商」では

なかった？

加東市教育委員会

人権教育推進員 久野 勝久

同和教育が始まった頃には、ピラミッドに「士農工商」を四段に分けて描き、江戸幕府が民衆分断のために部落差別を作ったと教えていました。いわゆる近世政治起源説です。このように学習された方が多いのではないかと思います。ところが今の教科書では、町に住む者を町人、村に住む者を百姓と書いてあります。また、部落も社会の下ではなく、「ほかに」「別に」「異なる」と書かれています。高名な歴史家の網野善彦さんが若い時、ある部落のおばあさんから「わたしの先祖は何をしたんや。なんで差別されるようになったのか。」と問われて、答えられなかったと、ある本に書かれていました。その時から網野さんは、その質問に答えるように歴史の研究をやったと語られていました。そして、中世の民衆の姿を生き生きと再現される著書を次々と世に出されていたのです。アニメ「もののけ姫」の世界ですね。

今では、世界遺産である銀閣寺や龍安寺の庭園など、また、幽玄な世界を表現する「能」も差別されていた人々によって作り出されてきたと教科書に紹介されるようになっていきます。また、キヨメ役としての部落の起源は、中世まで遡るといいます。

お子さんやお孫さんの教科書を覗いてみてはいかがでしょうか。

特集

インターネットと
人権侵害株式会社情報文化総合研究所
代表取締役 佐藤 佳弘

「2ちゃんねる掲示板で中傷されている。どうしたらいいのか?」。講演会で質問に立った男性は困り果てた表情で質問しました。私は講演の中で悪質書き込みへの対処方法を紹介しました。それは、人権擁護機関に被害を申告して助言を受けるというものです。おそらく、男性はこの説明に納得できず、書き込みを削除する方法が聞きたかったのでしょう。被害の当事者としては、当然の質問です。実は、講演者である私自身もこの対処方法には忸怩（じくじ）たる思いがあるのです。しかし、現実には悪質書き込みを確実に削除する方法は、残念ながら存在しません。

もちろん、人権擁護機関に相談しても削除されるとは限りません。2016年12月に施行された部落差別解消推進法には、禁止事項も罰則規定もありません。従って、この法律を根拠に削除することはできません。差別書き込みを違法とする法的根拠がないにも関わらず、違法性を証明できない書き込みをうかつに削除すると、サービス提供事業者は逆に訴訟リスクを抱えることになるのです。

思いいます。ネット上の情報は玉石混交です。法人・団体から発信される情報はともかく、個人が書き込む掲示板、ブログ、SNSでは、投稿内容のチェックの仕組みがなく、責任の所在が曖昧です。情報の真偽は、当てにならない個人の良識に委ねられています。ウソやデマ、誤った情報も無責任に流布します。また、事実確認によって虚偽だと認定されても、なお信じる人々がいます。客観的な事実よりも感情に訴える情報の方が影響力を持つてしまうというのは、ネットの怖さでもあります。せめて私たちは、ネット上の差別書き込みを安易に信じることをないよう冷静でありたいものです。

佐藤さんには、昨年9月14日(木)の企業人権教育協議会主催の市民公開講座でご講演をいただきました。

インターネットと部落差別

人権教育課では、平成 27 年度からインターネット上の差別書き込みを検索し、早期に削除を行うことを目的に、キーワード検索を行っています。

これまで発見し、法務局等に削除要請を行った書き込みは、ヤフー知恵袋やインターネット版部落地名総監に関するサイトの書き込みでした。特に、部落差別解消推進法が制定される理由の一つとなった「部落地名総監」と呼ばれる被差別部落に関する書き込みを行うにサイトは悪質で、削除されても、すぐに新たなページが作られるという状態にあります。

検索を続ける中で、平成 29 年 6 月、ソーシャルネットワーク・キングサービズ（SNS）の一つであるツイッター上に部落差別を助長する書き込みを発見しました。書き込まれた内容は、「カスとゴミが多い被差別部落。加東市●●。二度と住みたいと思わない。」

です。部落差別の勉強はもう必要ないと言われる方もありますが、現実はこの書き込みが示すとおり根深く残っています。

この書き込みの発見後、すぐに法務局に差別書き込みの報告を行うとともに、削除依頼しました。

この事件を受けて開催した加東市人権問題審議会から「一刻も早く削除することが大切であり、あらゆる手段を講じて拡散防止につなげる」と意見が出されました。

ツイッター社に対して、文書で削除要請を行いました。何ら反応は無く、削除されることはありませんでした。

なお、今回は、非常にまれなケースになりますが、書き込んだ者を特定することができたため、差別を助長する書き込みであり、削除するよう伝えたところ、すぐに本人が削除して、不適切な事態を収拾することが出来ました。

あらゆる差別の解消に向けて

差別の解消には、加東市、加東市教育委員会、加東市人権・同和教育研究協議会等が開催する、市民人権講座、人権啓発講演会などの講演会のほか、各地区で開催される人権学習会に参加して人権に対する正しい理解とあらゆる偏見を見抜く力を育んでいただくことに尽きます。

関係団体が協力し、さまざまな学習方法等により、人権尊重の精神を当たり前の社会意識として身に付け、価値観の違いや多様性を認め合う自由で平等な共生社会になるように取り組んでいきますので、学習会等への積極的な参加をお願いします。

また、差別書き込みの検索作業については、事件後、定期的にを行うようにしており、差別書き込みを削除する取り組みを強化しています。

市民の皆様の中で、インターネット上で差別を助長する書き込みを発見された場合は、教育委員会人権教育課までご連絡をお願いします。関係機関と協力し、削除に向けた取り組みを行います。

* インターネットを活用するときの注意点 *

わからないことがあるとインターネットを活用して調べることが多くなっていますが、検索結果の画面の最初に表示されるものが正しい情報とは限りません。私たち一人一人が差別や偏見について、正しい認識を持つためには、学習することが一番の近道です。

→どういった差別がなくなるか→これから自分自身で調べること。にするのですがこれを400字程度まとめるにはどうすればいいですか？

からみえてくること

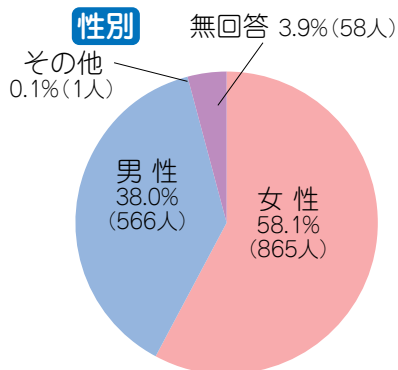
ご協力いただいた皆様
ありがとうございました。



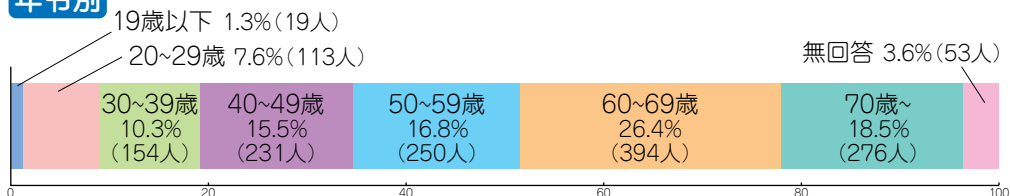
加東市マスコットキャラクター
加東伝の助

プラン」を策定しています。
民意調査を実施しました。今回は、その結果の一部をご紹介します。

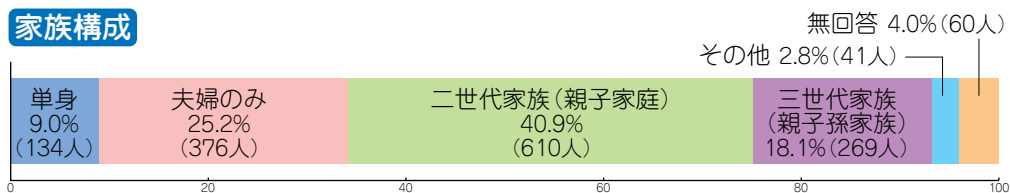
回答者の状況



年齢別



家族構成

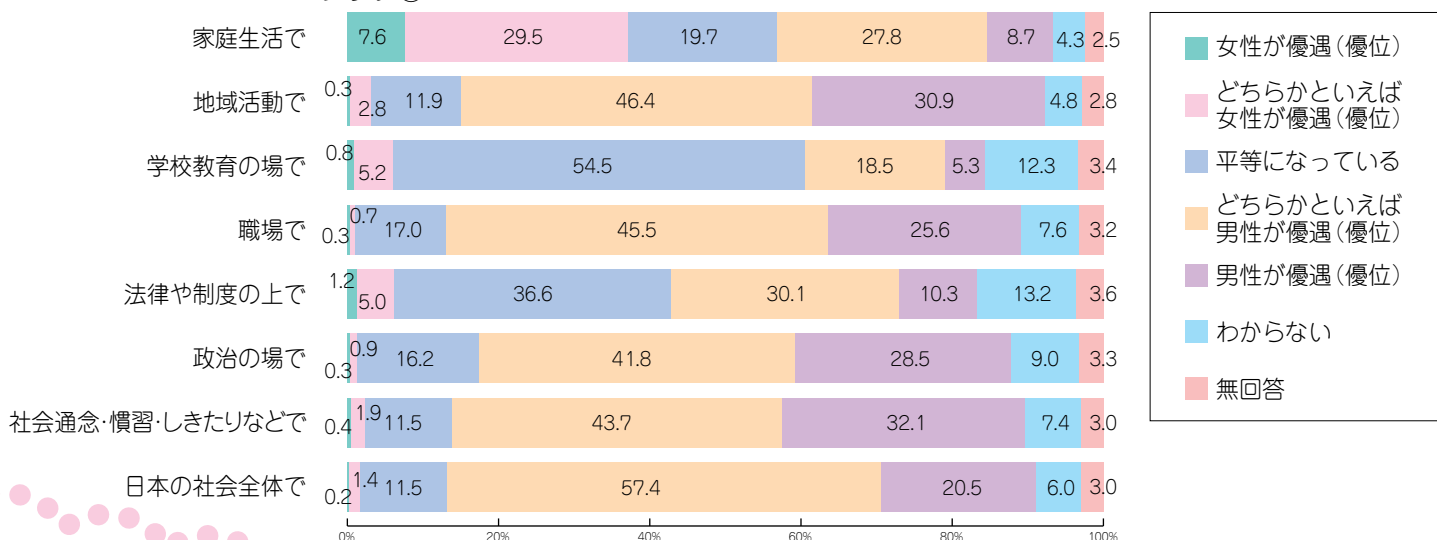


問② あなたは、現在の日本社会でみた場合の男女の地位についてどのように感じますか。

現在の社会のさまざまな場面で男女の地位についてどう感じるかということをお尋ねしました。「学校教育の場」では男女は平等になっていると感じる人が過半数を超えています。また、「家庭生活」においては『女性が優遇』と『男性が優遇』が同程度の割合となっています。しかしながら、その2項目以外は、いずれの場合においても『男性が優遇』と感じる人の割合が、『女性が優遇』と感じる人の割合を上回っています。(グラフ①参照)

男女共同参画社会のあるべき姿が広く浸透したことで、「男性が優遇」と感じる人が増え、「日本の社会全体」についてみた場合、前回調査結果と比べて「男女平等」と感じる人が減ったと推察します。(グラフ②参照)

グラフ①

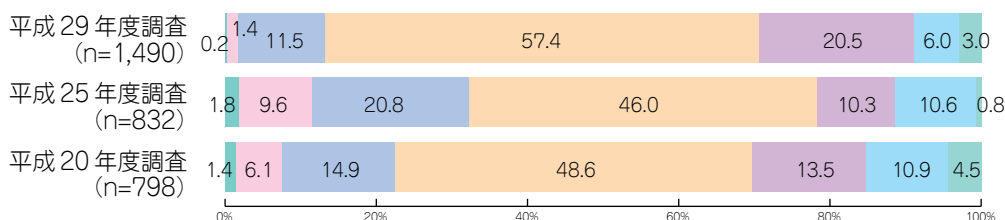


社会はステキだけれど、
男性優位でしょうか。
「女だから・男だから」という
のはもったいないですね。
を考えることです。
男女共同参画社会の
進めていきます。



グラフ②

前回までの調査結果との比較「日本の社会全体」についてみた場合



男女共同参画に関する意識調査の結果

加東市では、市民一人一人が、互いに協力して個性と能力を十分に発揮できる社会をめざして、「男女共同参画 現行のプランを見直すにあたっての基礎資料とするため、昨年8月から9月にかけて、男女共同参画に関する市

調査の概要

対 象：加東市に住民登録のある18歳以上の方の中から無作為で選ばせていただいた4,000人の方々

調査方法：調査票を郵送し、回答方法は郵送提出もしくはインターネット回答のどちらかを回答者が選択

実施期間：平成29年8月23日～9月15日

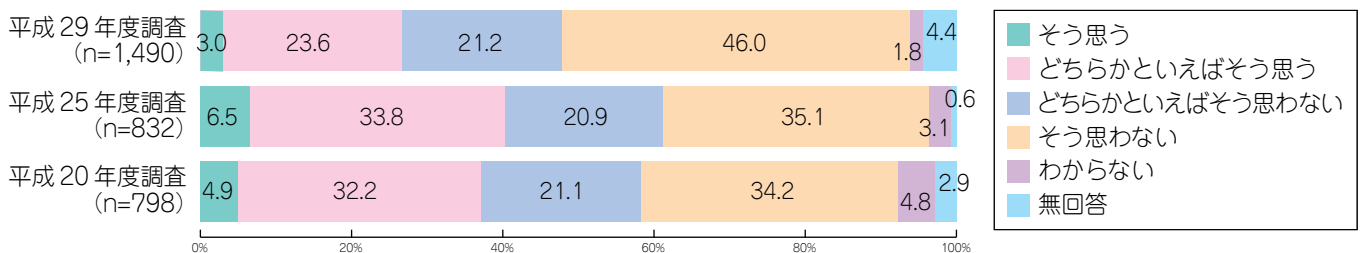
回答状況：1,490件（回収率37.3%）

男女共同参画に関する意識調査は、これまで、平成20年、平成25年にも実施しています。今回の調査結果と比較して、意識の変化をみてみましょう。



問① あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について、どのように思いますか。

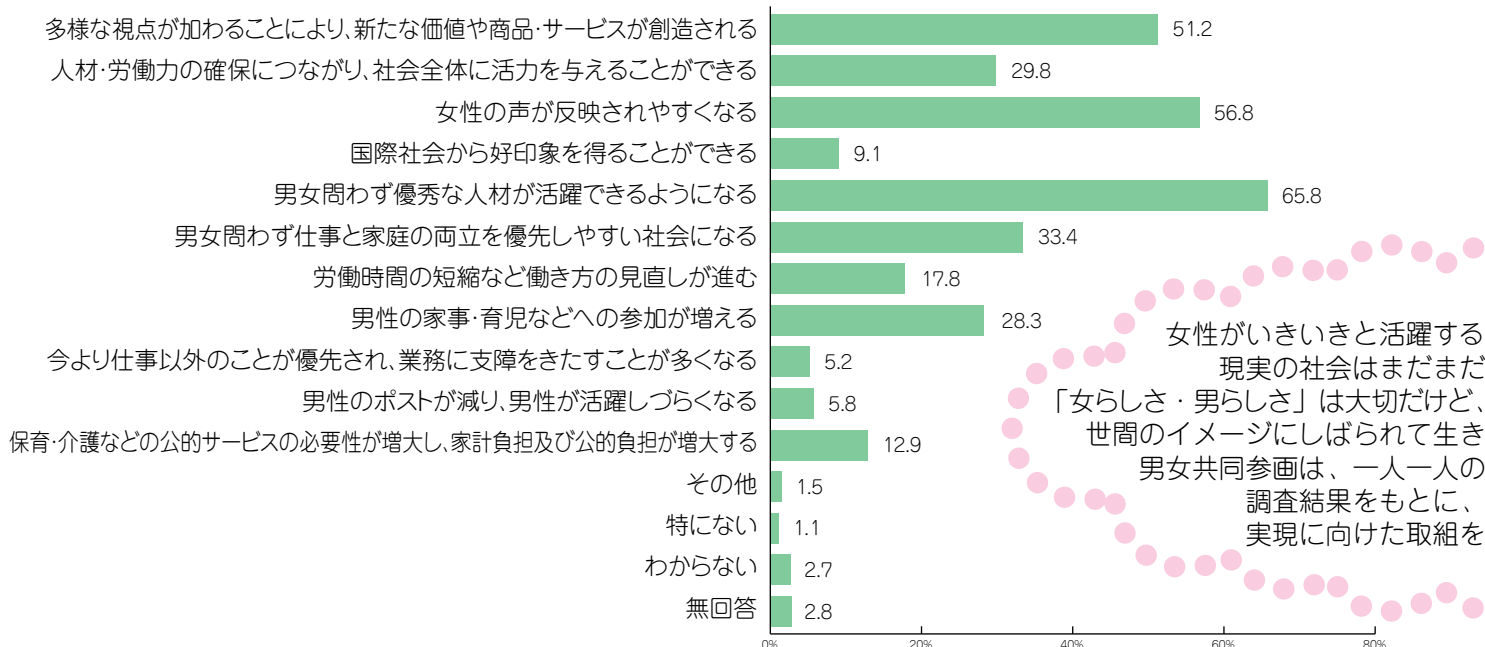
性別による固定的な役割分担意識をお尋ねしました。前回までの結果に比べて、この考え方に否定的な人（「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」人）が増加していることが分かります。



問③ 政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えたとどのような影響があると思いますか。

問③は社会において女性が活躍することに対するイメージをお尋ねしました。

男女問わず活躍できるようになる、新たな価値が創造される、仕事と家庭を両立しやすくなるなど、よいイメージを持つ方が多いことがわかります。



「手話を通して」



社中学校
一年 北山 冬真
きたやま とうま

皆さんは、日本全国で障害者手帳を持つ聴覚・言語障害の人は何人おられるか知っていますか。日本全国では約三六万人いると言われています。また、事情により障害者手帳を持たないという方も含めて約百万人以上が聞こえない・聞こえにくいという生活を送っておられます。これだけ多くの聞こえない方がいるにも関わらず、聞こえる人達の抱く「聞こえない人」のイメージには多くの誤解が存在しています。

例えば、「みんなが手話で会話をする。」「筆談でなら誰でもスムーズに会話ができる。」「というイメージを持たれることがあります。」「耳の聞こえない人には手話を使わない人もおられ、手話が得意な人でも、語彙数が少ないったり、文法が苦手で筆談は得意ではないという人もおられます。」「

手話で会話をするうえで、最も大事なことが、身振りや表情の豊かさです。

顔に表情をつけることで相手の声のトーンが聞こえなくても、話し手が楽しいのか、悲しいのかなど、相手の気持ちを読み取ることが出来るからです。また、耳が聞こえない人に抱く誤解の中で一番多いのが、「聞こえないが、目が見えるから生活には困らない」というイメージです。

しかし、これは大きな間違いです。目が見えていても耳が聞こえないため、後方からの車のクラクションや人の呼びかけが聞こえず危険な目にあったり、目覚まし時計の音などが聞こえないため、日常生活で困ったりすることが沢山あるのです。

聞こえない人が手話で話すとき、当然手話を知らない人には内容がわかりません。そんな時に通訳してくれる人達を「手話通訳士」といいます。この通訳士は全国で二千五百二十一人います。この手話通訳士は誰でもなれるわけではなく、厚生労働省が認定する試験に合格することで、裁判所や政権放送等の公的なところで手話通訳を行うことができます。

加東市では二〇一四年一月に手話を言語として位置付ける手話言語条例が制定されました。これにより市内で手話が言語と認められるようになり、身近に手話に触れることが出来るようになりました。みなさんも、ぜひ機会を見つけて、手話サークルやイベントに行ってみてください。

手話は、一見難しそうに見えますが、僕は身は母が手話サークルに入っており、そのサークルに参加したことがきっかけで、手話の魅力に気付くことができました。イベントでは、ゲームをしたり、耳の聞こえない人と楽しく接したりすることが出来ます。

僕も、初めて耳の聞こえない人と手話で会話をしたとき、どう伝えればいいのか悩んだり、本当に伝わっているのか不安になったりしました。しかし、相手に自分の思いが伝わった会話できたときは、とても感動しました。

そして、今も自分の手話が通じたときには幸せな気持ちになります。

これからの僕の目標は、手話通訳士の試験に合格し、資格を取ることです。資格を取ろうと思ったのは、手話をしていて聞こえない人のために役に立ちたいと思ったからです。また、将来、仕事に就くうえで、資格を取得していると、何か役に立つことがあると思っただけです。

これからも、手話について学び、もっと知識を増やしていきたいです。僕のこの発表を聞いて手話に少しでも興味を持った方があれば、ぜひ挑戦してみてください。きっと新しい世界が広がるはずです。



「少しの勇氣」



滝野中学校
二年 丸山 春奈
まるやま はるな

体に障がいのある人には、多くの人が当たり前のようにできることでも、簡単にはできないことがたくさんあります。近年はそうした障がいのある人の生活を考えたバリアフリーや、ユニバーサルデザインの普及で、体に障がいがある人の生活も少しずつ変わってきたのではないかと、私は感じています。

しかし、一方では今のままではいけない、もっと変わらなければいけないと感じるところもあります。

障がいのある人の生活を豊かで便利にするためには、バリアフリーやユニバーサルデザインの普及が進むだけでよいのでしょうか。私はそれだけではいけないのではないかと考えています。

私は、小さい頃に左耳が全く聞こえなくなっていました。今は、右耳に頼って生活しており、普通の人より聞こえにくいいため、普段の生活の中で不便なことが多いです。

例えば少し離れた場所から名前を呼ばれても、反応できないことがあったり、自分のすぐ左側にいる人と会話していても、その人の声が聞き取りにくかったりします。授業中は先生の声が聞こえにくいことがあります。左耳が聞こえないだけの私にも、生活の中でた

くさんの不便なことがあります。

私とは違う別の障がいを持っている方はいったいどんな不便を感じているのだろうかと思えることがあります。

車いすの方は数センチの段差でも越えることが難しく、スロープがあっても坂が急だと上るのに力がいるため、とても大変だと思えます。目の不自由な方は、通路を歩くときに点字ブロックを使いますが、その点字ブロックの上に人がいたり、自転車が止まっていたりしたらとても危険です。

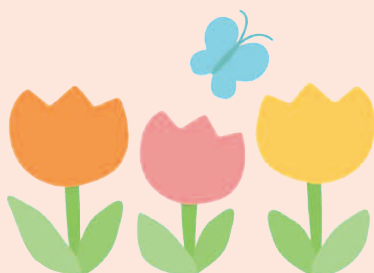
バリアフリーやユニバーサルデザイン化が進んでも、使いやすさを十分に考えられていなかったり、設備を理解していない人がいたりすると、多くの人が不便を感じると思います。

しかし、現在左耳が聞こえない私は、普通の人と変わらない生活が送れています。学校で生活している時、少し離れた所から呼ばれてもちゃんと気づくことができるのです。なぜなら、私の近くにいる人が私の肩をたたいて「呼ばれているよ。」と教えてくれるからです。授業中に先生の声が聞き取りにくいときには、隣の席の子が教えてくれます。移動教室で友達と並んで歩くときには、友達は私の右側に来てくれて会話がしやすいようにしてくれます。左耳が聞こえなくて生活に不便なことが生じてても、周りの人が理解してくれ、何気ない行動の中にも温かい気遣いをしてくれています。そのおかげで私は不便を感じることなく、気持ちよく毎日が送れているのです。

障がいのある人がどんなことを感じているのかを理解することは、とても難しいことかもしれませんが。片耳が聞こえない私も、両耳

が聞こえない方の気持ちや、他の障がいを持っている方の気持ちは、すべては分かりません。それでも、私が周りの人の理解や、温かい気遣いで救われているように、「理解しよう」、「気遣おう」としてやることは、障がいを持って生きていく中で本当にありがたいことだと思えます。

今、近くに体の不自由な方はいませんか。困っている人はいませんか。何かしたいと思ってもどうしたらいいかわからないときには、「大丈夫ですか。」や、「何かお手伝いできることはありますか。」と、声をかけてみませんか。その少しの勇氣が相手を安心させ、障がいのある人の生活を変える一番の救いになるのではないのでしょうか。



「声をかける勇氣」



東条中学校

二年 柴崎 剛

吾陸

去年の話です。僕は部活を終え、家に帰ろうとしていたところです。帰り道の途中で、僕は頭がふらふらしてきました。だから、少し歩道で休憩することにしました。しかし、休憩していても回復するどころか、もつとくったりしてきました。体中の力が抜けて、立てなくなっていました。そんな時に僕の様子を見かけた男性が僕のことを心配して一度通り過ぎたのに、わざわざ戻ってきてくれたのです。

その男性は、自分が羽織っていた上着を僕に着せ、救急車を呼んでくださいました。そのお陰で僕はそのまま病院に行き、ゆつくりと休み、無事に元気になることができました。その日の夜、親切な男性にお礼をいうために電話をかけました。男性は普段は医者として働いており、僕と同じ位の歳の子どもがいるそうです。僕が、

「ありがとうございます。」

と伝えると、男性は

「困ったり、苦しんでいた子どもを助けるのは当然だ。」

と言っていました。

僕の母親が

「お礼の品を送ります。」

と伝えても、

「当然のことをしたまでですから。」

と、男性は断りました。

この男性以外にも僕の友達のお母さんが偶然通りかかり、僕の家はどこかを色々な人に聞いてまわって僕の自転車やバッグを家に届けて下さいました。また、救急車が来るのを待っている間にも、飲料水を近くのコンビニで買って下さいました。

この友達のお母さんにもお礼の気持ちを伝えると、

「当然のことだから。」

と笑顔で言われていました。

僕を助けてくれた人はどちらも共通して、

「当然のことだから。」

とおっしゃっていました。

今、この「当然」の行動をとれる人は少ないと思います。実際に、僕が倒れたときも、この親切な男性が来てくださったまでは、何人かの人が僕の前を通り過ぎていきました。僕自身も、僕が通行人の立場になったとき、あの男性のような行動を瞬時にとれるかあまり自信はありません。

ショッピングモールで迷子になって、泣いている子を見ても、かわいそうだなとは思っても、「大丈夫？」と声をかけることはできませんでした。

僕はなぜあの男性や友達のお母さんにはできて、僕にはできなかったのかを考えてみました。

まず、まだ恥ずかしいという気持ちがあったからだと思います。何も恥ずかしいことではないし、人を助ける善い行いなのに、何故

か恥ずかしいと感じる自分がいるのです。

さらに、責任感の違いだと思います。僕がやらなくても、きっと誰かがやってくれるだろうという気持ちがあるからだと思います。もし、その場にいた全員が「誰かがやってくれるだろう。」という気持ちでいれば、その子の悲しむ時間が長くなるし、僕のような場合であれば最悪の場合、死んでしまうかもしれません。一人一人の責任感のなさが声をかけられなかった原因の一つだったかもしれない。

そして、目の前で迷子になっている子どもの家族のことまでは、考えられなかったからではないでしょうか。子どもが迷子になるとその子は当然、悲しむし不安になります。しかし、その子どもには保護者の方がおられます。迷子になって心配したり、悲しんだりするのは親も同じです。子どもの周りのことまで考えていないから「かわいそうだなあ。」で終わってしまったんだと思います。

これから僕は、「当然」のことを当然にできるように、恥ずかしがらずに勇気を出し、責任感のある行動をしたいです。当事者以外にも悲しんだり、不安になったりする人のことも考えて行動していきたいです。

そのためにも、まずは自分の父親や母親、祖父母や友達など、身近な人が困っていたり苦しんでいたら助け、力になっていけるようにしたいです。

苦しんでいる人や助けを求める人がいたら、今の自分の力でできることを考え行動していきます。そして、自分を助けてくれた人たちに少しずつでも近づいていきます。

「同じ人間じゃないか！」



兵庫教育大学附属中学校
二年 石井 陽菜
いしい ひな

「え？あの人もしかして障がい者？ちょっと嫌なだけだ!!」
と誰かが言ったのを私は聞いたことがあります。なぜ障がいがあるというだけで、そんな風に見下されなくてはならないのか。

私はある陸上クラブに通っていました。そこには、障がいのある人たちもたくさん参加していました。私は、最初は障がいのある人たちが苦手でした。なぜなら、ずっと独り言を言っていたり、好き勝手に行動をしたりするからです。しかも、その人を担当の先生が連れ戻しに行つて時間をとるし、私が全力で走っていた時、急に飛び出してきて危なかった時もあったし、ずっと名前を呼んでいつて来ることもあったのです。それに一人の人に何人も人がついて、なんだかそれが、「あなたは健康だから一人で何でもできるでしょう。」と言われていろいろで、腹立たしかったです。私たちに迷惑をかけにきているのか？意図的に邪魔したいのか？とずっと思いながら最初のころは走っていませんでした。「障がいのある人は一人じゃ何もできないくせに」とずっとそう思いながら走っていました。

そんな私の考えが変わりはじめたのは、何

回か通つて、初めは少し避けていた障がいのあるA君と一緒に走るようになった頃でした。私は今よりもっともつと速く走れるようになりたいと思ひ、一生懸命に取り組んでいました。しかし、走っているA君は私よりも運動量は少ないけど、たくさんの汗を流して、私以上に一生懸命に走っていたのです。

その時、私は思ひました。「障がいという壁を乗り越え必死に努力しているんだな。障がいのある人も障がいのある人なりに頑張っているのだな。いや、障がいのある人なり」という言葉は間違っているのではないか。障がいのある人も私たちと同じように一生懸命に努力しているだ。」と。

障がいというハンデがあつてもそれに押しつぶされず、生き抜こうとしている姿はともたくましいと思ひました。

私は、障がいのある人たちには嬉しいという感情はあつても、「悲しい」や「嫌だ」などという感情はないものだと思ひていました。今思つと、本当に恥ずかしく思ひます。

私がそのように感じたのは、A君とのあることがきっかけでした。まだ、A君のことを苦手に思ひていたころです。A君が近寄つてきたとき、私は何回か避けてしまったことがありました。すると、次の週からA君は私にだけは近寄つてこないようになつたのです。それで気づいたのです。私の行動がA君を傷つけてしまつていたということ。本当に失礼なことをしてたと深く反省しました。

そんな私に比べ、陸上クラブのコーチたちはA君たちをひいきするのではなく、私た

ちと同じように接してました。そして、A君が急に「ガタンゴトンガタンゴトン」と電車ごっこをしながら近寄つてきても、私なら少し怖くて逃げてしまひそうだけど、コーチたちは一緒になつて、一つも嫌な顔をせず、優しく対応してました。コーチたちが当たり前のようにできる行動を、いつか私も当たり前にできるようになりたいと強く思ひました。

また、「障がいのある人は一人じゃ生きていけないくせに」という考えも間違つていたことに気づきました。私も一人じゃ生きていません。同じ人間なのに障がいのある人をまるで弱い者いじめのようにけなしたり、不平等に比べてしまつたりしていた自分が本当に情けなくなりました。

私はA君のことを通して、障がいのある人たちが誰一人差別されることがなく、私たちと同じように日々、一生懸命に生きていける社会について改めて考えました。

私は、誰もが平等な立場で平等に権利を持ち、助け合つて生きていくのが望ましい社会だと思ひます。そんな社会に向け、私はまず、障がいのある人たちの人権が守られるよう私にできることをやっていこうと思ひています。



人権教育講演会

5・6年生児童と、市立中学校全校生を対象に、講演会を開催しました。

「あきらめない心」



講師：伊藤 真波さん
(元パラリンピック水泳)

日本代表・義手の看護師）
20歳のとき、事故で利き腕の右腕を失う。義手を神戸で作ったことが縁で、神戸市内の病院で日本初の義手の看護師となり、リハビリの一環で始めた水泳でパラリンピック日本代表にも選ばれました。

講演では、事故で片腕を失ったからの苦労や挫折を味わいながら、看護師として、また、スイマーとして歩んだ道のりをバイオリン演奏を交えながらお話しいただきました。

日時：平成29年10月10日(火)
対象：社・福田・米田・三草・鴨川小学校の5・6年生

◆児童の感想

私は伊藤先生が来たとき、本当に障がいをもっているのかなと思っていました。理由は、とても笑顔だったからです。私が講演会です。いと思ったのは、最後のバイオリンです。義手で弾いていたのに、きれいな音が出ていたので、すごいと思いました。話を聞いて思ったことは、自分一人では何もできないということです。伊藤先生は、お母さんやお父さんに支えられていると言っていました。私は、周りにたくさんの方が居ることに感謝して、これから過ごしたいです。



「いのち輝くために」

「いのちってあったかいね」



講師：山本文子さん
(いのち咲かせたい代表・助産師)

日時：平成29年10月2日(月)
対象：滝野東・滝野南小学校の5・6年生

講演では、いのちの現場で働く助産師としての経験をもちに「自分が育ってきた時代の大家族のような施設をつくりたい」と助産院、保育所、お母さんと小さいお子さんが集うおやこひろば、高齢者の方々が通われるデイサービスが複合する施設を作りました。「いのちってあったかい!!」と命の大切さを語り続けています。

講演では、「あなたが生まれてきたことは奇跡の出来事。あなたたちは、折り紙に針で穴を開けたぐらいの大きな卵と精子が結び合って、ここまで大きく育ったの。だから、自分を大切にしてください」とお話しされました。

◆児童の感想

山本文子さんの話を聞いて、「産まれることは、すごいこと」「やらすして、あきらめるな」ということが心に残りました。ぼくは、すぐにあきらめてしまうことがあるので、あきらめず最後までがんばってみようと思います。ぼくは、時々、反抗する時があります。反抗したら怒られるけど、また、してしまいます。お母さんは、大変な思いをして産んでくれて育ててくれたのに、とんでもないことをしていたな、と本当に思いました。すごい話を聞かせてもらいました。

「一人芝居」もも子「を通して」

「子どもたちへ命の尊さを伝えます」



講師：福永 宅司さん
(子どもの学び館 代表取締役)

日時：平成29年9月29日(金)
対象：東条東・東条西小学校の5・6年生

小学校教諭・大学講師を経て、現在は九州を拠点にして、精力的に講演活動や一人芝居、私塾の経営をしながら、子どもや保護者の支援をされています。

講演では、知的な遅れと身体障がいがありながらも明るく健気に生きる「もも子」と、妹思いの兄やその友人らを一人で力強く演じられ、友情・家族愛・命の大切さを伝えていただきました。

◆児童の感想

私は講演会での一人芝居を見て、重い病気をもち「もも子」のお話に涙がぼろぼろ流れてきました。もも子は自分が重い病気であることを知っていても、元氣と笑顔いっぱい毎日過ごしていました。もし、私がおもも子と同じ重い病気でいたら、きっと泣いていて、おもも子みたいに元氣と笑顔で毎日過ごせないと思います。もも子は生きている時間一秒一秒大切にしています。かっこいいと思いました。私のお姉ちゃんもも子が通っていた特別支援学校に行っています。お姉ちゃんの友達には、いろいろな障がいのある子がいます。その子たちも元氣いっぱい毎日過ごしています。私は、今日のお話を聞いて、障がいのある子たちとも仲良くしたいです。

小中学校

社・滝野・東条の3地域の市立小学校

「笑う門には福来たる
いじめられっ子の僕が
落語家になったわけ」



講師：林家染太さん（落語家）



日時：平成29年12月2日（土）
対象：社中学校全校生徒

◆天満天神繁昌亭をホームグラウンドに、全国各地の落語会、テレビ、ラジオで活躍される中、「人権落語講演」も精力的に行っています。
◆講演では、中学時代に壮絶ないじめを乗り越えた経験や、落語を通して学んだ数々の教訓をもとに、人と人とのつながりの大切さ等について、落語を交えて話されました。

生徒の感想

◆林家染太さん自身、中学生の頃にいじめを受けていて、とても辛い体験をされてきた方なので、今日の講演会はとても説得力があったと思います。「吐く」の話で口からプラスの言葉ばかり発していたら、夢は叶うと言っていたので、これからはマイナスイメージをしないように心がけようと思いました。また、命はとても大切なものだと思って学んだことができました。どんなに辛くても、何度も死にたいと思って、必ずこれからの未来には楽しいことが待っていると教えていただきました。



「オール1の落ちこぼれ、
教師になる」



日時：平成29年11月18日（土）
対象：滝野中学校全校生徒

講師：宮本 延春さん
（元高校教諭）

◆幼い頃からのいじめで成績は「オール1」。
◆23歳で物理学に興味をもち、九十九から猛烈勉強し直し、名古屋大学合格。高校教諭を経て、現在は執筆・講演活動で活躍されています。

◆講演では、人の価値は存在そのものにあることや、普段当たり前に思っていることに感謝することなどを話していただき、多くの生徒の心に響きました。帰る前に握手を求める中学生に笑顔でエールを送りました。

生徒の感想

◆今日の講演会は今までで一番笑ったし、一番心に残ることがたくさんありました。親に勉強しろって言われると、よけいにやる気をなくすし、反抗したりしてしまうけど、そうやって言ってくれる人がいなければ、ダメな自分に気づかないままかもしれないので、言ってくれる人がいることに感謝しようと思いました。人に優しくすれば自分にも優しくさが返ってくるので、友達などを大切にしようと思いました。また、私もあまり裕福な家庭ではないので、宮本さんの話には共感することばかりでした。そして、自分も早く働いて少しでも家計を支えていけるようにしたいです。気づかされることが多かったいい講演会でした。

「いのち輝くために
いのちと性を考える」



日時：平成29年11月25日（土）
対象：東条中学校全校生徒

講師：山本文子さん
（いのち咲かせたい代表・助産師）

◆今年度、2度目のオフアードです。思春期の子どもたち、子育て中のお母さんたちだけでなく、社会人としてお仕事をされている方や高齢者の方々にも「いのちってあたたかい!!」「性は心が生きること」と熱い思いを伝えていきます。

◆講演では、中絶の現場に多数立ち会った助産師の経験から、性教育を中心に、自分のからだを大切にすることだけでなく、相手の心からでも思いやれる素敵な人になって欲しい。そして、これから訪れる素敵な人との出会いのために、自分を高めていこう、と話されました。

生徒の感想

◆今まで私は、「なんで私を産んだんだ」と思うことがありました。辛いことがあると、「私なんて生まれてこなければよかった」とか「なんで産まれてきたんだ」と考えることがありました。でも、今、友達と楽しく過ごしているのは、お母さんが大変な思いをしてまで、私を産んでくれたからだ実感しました。この講演では、命の大切さを教えられました。



園児らの共同作品

市内の保育園・認定こども園・幼稚園に通う園児たちが、思いやりや助け合いの気持ちをテーマに共同作品を作成しました。



社こども園（5 歳児）

えがおでつながろう ともだちのわ

みんなで仲良く 手を取り合って 笑顔を増やそう
世界中に広がれ 友達の輪



社こども園（4 歳児）

みんな いきている！

散歩に出かけて いろんな虫をみつけたよ。
小さな虫も一生懸命いきているんだね。



椿山保育園（5 歳児）

みんなで うんとこしょ

大きく育った さつまいも。
みんなで力を合わせて いもほりを がんばります。



泉保育園（5 歳児）

みんなともだち ずっとともだち

笑顔がいっぱい嬉しいね。
大好きなお友だちと ずっとずっと仲良しでいられますように♪



東古瀬こども園（5 歳児）

みんなとあそべて たのしい！！

「とびおりのの こわかった。
でも、みんなとあそべて よかった！」
はっぱからの おたよりです。



正覚坊こども園（5 歳児）

みんなにとどけ！ほくらのリズム！

友だちと心を合わせた合奏。
音楽を聞いて虫や動物たちがやって来たよ！
みんなで合奏、楽しいね！！



米田こども園 (5歳児)

みんな だーいすき!

「いーれて!」「いいよ!」「ありがとう!」
それは魔法の言葉。
みんな仲良し! みんなだーいすき!



三草こども園 (5歳児)

緊張したけど がんばったよ!

365歩のマーチの歌詞のように、
1歩ずつ大きくなっていく、
こぐまぐみのなかまたち。



鴨川保育園 (4・5歳児)

ともだちと ちからをあわせたよ

自分の思いを出しながら、
みんなで作りあげた運動会の表現遊び。
力を合わせる喜びを感じました。



加茂こども園 (5歳児)

エルフのこころはいきつづける

大好きな仲間の命を見事に守り通し、
みんなに感謝されたエルフの生き方は、
愛に満ち、輝いていた。



たきの愛児園 (5歳児)

ひとりじゃない

みんなで心をつなにして 何事も最後まで頑張れる
まつ組になろう!



高岡育児園 (5歳児)

ひろがれ! えがおのわ

みんな なかよし にこにこえがお!
えがおしていると しあわせなきもちになるね。



河高保育園（5歳児）

力をあわせて1UP！

みんながいるから がんばれる。
ちからをあわせて 1UP！



東条こども園（5歳児）

ひとはみんなのために

動物の表現あそびをしました。
ひとりでは出来ないことも、
みんなで協力すれば大きな象にもなれました。



秋津保育園（5歳児）

いつまでも ずっと ともだち☆

くじけそうなときでも
力をあわせたら、きっと大丈夫だね。
ともだちっていいね。



さくら保育園（5歳児）

ちからあわせて こころをひとつに！

組体操のピラミッドのように、
世界のみんなと力を合わせ
心を合わせて過ごせますように！



社幼稚園（5歳児）

たんぽぽひみつきちをつくろう！

皆が入れる大きな基地を作ろう！
1人ではできなくても、皆で力を合わせれば、
ステキな基地の出来上がり！



福田幼稚園（4・5歳児）

うちゅうにとどけ

みんなの えがおが
うちゅうに とどきますように・・・

第11期加東市民人権講座修了者一覧

第11期加東市民人権講座を3回（2回と補講を含む）受講され、修了された皆さんです。
さまざまな人権課題について学習していただきました。学んでいただいたことを活かし、地域のリーダーとしてご活躍されることを期待いたします。

【社一区】	田尻憲昭	依藤嘉仁		【山 口】	宮口省吾	大畑庄平	
【社二区】	宮野 勇	吉田伊佐見		【牧 野】	大畑雄介		
【社三区】	服部正法	廣畑宏幸	渡川時示	【吉 馬】	永井正彦	松本敏夫	
【社四区】	小紫吉猛	藤原 勉	真木康行 小丸道広	【上鴨川】	加門 正	堀 健太郎	丸山順子 中野美穂
【社五区】	松岡達哉	松井 敏		【下鴨川】	鵜野悠美	吉村園美	黒崎智子
【ひろのが丘】	藤原千昭	溝口健士	岡田利之	【平 木】	蓬萊千秋	満田由美	岡田美樹 熊倉一郎
【嬉野台団地】	藤井寿美子	藤原由美子		【上滝野】	藤本 博	大久保 優	村上啓吾 大野 修
【山 国】	井上正一	宮野真弓	稲岡葉子 藤原わさ		井上宇享	中川健司	西山俊之 丸山雅章
	藤本千秋	田中京子		【下滝野】	尾縣千秋	阿江 孝	
【松 尾】	藤本真佐子				西村敬子	西田祐加	松下靖彦 内橋広道
	堀内正美	堀内正利		【新 町】	神戸隆男	末廣泰久	神戸祥子
【田 中】	吉田崇志	吉田留美子			中橋文代	上月明美	原田初美
【貝 原】	田淵大樹	藤本貴之	竹内一仁	【北 野】	西口真也	竹内秀一	
【野 村】	上月洋子			【穂 積】	藤本康彦	大橋重美	
【西垂水】	前田芳郎	中谷浅雄	前田まゆみ	【稲 尾】	小林義一	藤井聖三	丸山佳久 横山由光
【窪 田】	田中誠二	松井多津子	松井ひとみ	【曾 我】	井上憲昭	菅野和孝	北村浩一郎 三宅幸浩
【家 原】	亀野信樹	依藤幹男		【多井田】	小田口喜久次		
【上 中】	増本慶子			【河 高】	今川勝秀	田中徹男	
【上中団地】	石井純久	岸本具世		【高 岡】	日置達則	平尾幸司	井澤孝浩
	西角昌博	澤井英昭			池本泰基		
【喜 田】	玉井満男	小林芳樹		【桜 台】	宮永康昌		
【沢 部】	時本孝義	達可正文	壺井一好	【天 神】	石田浩之	今田有加里	
【福 吉】	高見雅徳	山矢孝子		【古 家】	新谷慶太		
【上 田】	井上智恵美	友藤加代子		【秋津台】	谷口晶子	小坂征幸	
【大 門】	小林美佐子	小林美鈴		【西 戸】	橋本政明		
【西古瀬】	小紫 保	小紫淑正	小紫保博	【少分谷】	合元貴裕		
【中古瀬】	服部義廣	谷川俊也		【貞 守】	宮田智賀子		
【東古瀬】	山中輝雄	山口 隆		【長 井】	藤本浩司	藤原洋美	
【屋 度】	山田義樹			【森 田】	田中孝明		
【東 実】	丸山吉正			【南 山】	西本良秋	西本順子	
【畑 田】	藤本辰男			【岡 本】	石田由美子	石田純子	
【廻 刈】	西村 香	芝田ゆかり	伊藤鈴慕	【岩 屋】	小藪富也		
【池之内】	山本 明	西山孝博	大塩裕和	【森 尾】	寺本 隆	吉田恵理	
【上久米】	中村英明			【新 定】	土肥孝徳	佐之瀬裕章	
【下久米】	松村考博	上月康暢		【小 沢】	藤原政男	土肥忠弘	
【上三草】	広畑恭子	広畑実男	大久保 翔	【栄 枝】	古田 進	古田由美	
【下三草】	藤原 智			【厚 利】	土肥義輝		
【藤 田】	鷹尾講市	井上 光		【松 沢】	柴崎茂昭		
	吉田智樹			【東垂水】	岩崎一彦		

生きがいと幸せを築きあつて人間尊重のまちに

加東市人権・同和教育研究協議会

住民学習推進部会

活動の総括

(平成30年1月末現在)

各地区での年間事業も定着してきました。差別解消に向けての人権学習で講師招へいやDVD視聴による学習会の開催が報告されました。

また、三世代交流をめざしたふれあい活動や、近隣地区との交流も含めてさまざまな活動が報告されました。

参加者の増加をめざして地区の事業や視察研修等、人の集まる機会をうまく活用して、人権DVDを視聴したり、いじめについて話をしたりするなど、よく工夫された取組が見られますが、人権学習となると、参加者が固定していると感じます。

一方で、住みよいまちづくり活動と連携して、地区をあげての「ふれあい祭り」「伝統行事」「ラジオ体操」「クリーン活



動」等の実施で三世代交流の取組は定着してきました。さらに、年間を通じて「人権啓発紙」や「地区だより」を発行された地区もあります。

学習内容

①「風の匂い」を視聴して

今年度の啓発DVD「風の匂い」は、障がい者の人権をテーマに合理的配慮とはなにかという視点から描いていきます。見る方々が自分自身の問題として考えるきっかけとなるドラマ教材でした。

多くの地域で活発な学習が行われました。

《感想より》(抜粋)

DVDを通して、障がい者に対する気遣いや配慮が必要だと認識することができ、我々の考え方を变えることで、障がい者に対する壁は取り除けるということも確認できた。

障がい者の目線で世の中を見ること、考えることができました。障がいのある人に対して、何ができるのか、人にやさしい社会をつくる

ことが、大切であることを学ぶことができました。人権問題の中でも多くの人が身近に感じている題材であったからではないでしょうか。障がいのある人に対する理解や配慮を自分たちの問題として考える良い機会になったと思います。

②他のDVDを視聴して

以下のようなDVDが貸し出されました。

「シリーズ映像で見る人権の歴史」第1・2・3・4・5・6巻

「LGBTを知ろう」

「すべての人々の幸せを願って」

「日常の人権Ⅰ・Ⅱ」

「外国人と人権」

「障がい者理解一歩進めよう」

「いじめと戦おうー私たちにできることー」

「同和教育 未来に向けて」

「インターネットと人権」

「私たちの人権宣言」

《DVD紹介》

シリーズ映像で見る人権の歴史



今年度、5巻、6巻を購入しました。これで、部落差別の起源から現在までの人権の歴史6巻がそろいました。これから制作されるようですので、その都度、購入し紹介していきます。ご覧になるだけでなく、部落問題の認識が新たになると思います。ぜひ、活用ください。

③講演会等

講師を招いての講演会・学習会が16地区で実施されました。



講師を招いての学習会の様子

《主な感想》

今日まで長い間、同和教育を学んできたと思っていたのですが、今日初めて被差別部落の起源を分かりやすく教えてもらったような気がします。

《主な講師》(順不同)

- ・春川政信さん
- ・大東太郎さん
- ・鹿多証道さん
- ・小林 茂さん
- ・近藤文好さん
- ・西田千枝子さん
- ・ちめいど雄介雄大さん
- ・小林怜子さん
- ・桂 文福さん
- ・山本邦夫・久野勝久推進員

学校教育部会

公開授業・保育



学校教育部会では、年間3回の人権・同和学習の公開授業・保育を行っています。24名の部員が参観し、公開後の研究協議を通して、人権課題の解決に迫る授業・保育改善に努めています。2月10日(土)に行われた「人権を考える市民のつどい」では、学校教育部会の取組として、兵庫教育大学附属幼稚園の実践を発表しました。

滝野中学校公開授業(11月13日)

・第2学年

・指導者 家本典子さん

・題材 「言葉の向こうに」

・ねらい 加奈子のインタビューノート上の書き込み内容や、忠告を受けた加奈子の気持ちを考えることを通して、それぞれの立場を尊重し、寛容の心をもったコミュニケーションの大切さを理解して、人権に配慮した情報発信ができる判断力を育て



る。

・参観者の感想

資料の中それぞれの場面でのような気持ちや考ええだったか、生徒自身に考えさせることで気づきや他の人の意見や考えにも気づくことができる授業でした。私も、コミュニケーションの大切さや自分の思いや考えを伝えること、人の思いを知ることのきっかけになるような保育を実践していきたいと思いました。

兵庫教育大学附属幼稚園公開保育(11月15日)

・4才児

・指導者 石田智子さん

・テーマ 「子育てひろば(未就園児との交流)」で一緒に歌と楽器で楽しもう。」

・ねらい

未就園児に親しみや思いやりをもつて関わったり、一緒に遊んだりしようとする。



・参観者の感想

活動の前後に話し合いをして、振り返ることで、活動の意欲や参加の

意識が持てたことはとても大切だと感じました。自分や友達だけでなく、未就園児の小さい子どもの気持ちにまで気づかせるということは、いろんな人達の気持ちに目が向くようになるので、人との関わりを大切にできると思いました。

三草小学校公開授業(12月4日)

・第1学年

・指導者 西山亜希さん

・題材 「どうしたの?」

・ねらい

表情や行動から相手の気持ちを読みとり、相手を考えた言葉かけをしたり、行動したりしようとする。



・参観者の感想

日頃から先生が子ども一人一人を見つめ、温かく支え、励ましておられる様子が伝わってきました。西山先生の姿勢、関わりこそが子ども達にとって一番のモデルではないかと思いました。勉強になりました。もう一度基本に戻り、がんばりたいと思います。

「人権を考える市民のつどい」

2月10日(土)に、東条文化会館で「人権を考える市民のつどい」を開催しました。

市内4校の中学生による人権作文の朗読を始め、地区住民学習、企業人権、学校園の実践発表を行いました。そして、加東市の取組に対して総括助言及び提言として、兵庫県人権教育研究協議会会長の桑原浩さんにお話しいただきました。これからの人権教育の進むべき方向を示していただきました。



人権作文の発表

(作文は6〜9ページに掲載しています)

・「手話を通して」 杜中学校1年 北山 冬真さん

・「少しの勇氣」 滝野中学校2年 丸山 春奈さん

・「声をかける勇氣」 東条中学校2年 柴崎 吾陸さん

・「同じ人間じゃないか!」 兵庫教育大学附属中学校2年 石井 陽菜さん

・実践発表 沢部地区 社会教育推進委員 國井 豊広さん

・アスカカンパニー株式会社 取締役統括責任者 門脇 弘朋さん

・兵庫教育大学附属幼稚園教諭 近田 小百合さん

・総括助言及び提言 兵庫県人権教育研究協議会 会長 桑原 浩 さん

・兵庫県人権教育研究協議会 会長 桑原 浩 さん

「受け継ぐ確かな実践・ 進めよう明るい職場づくり」

加東市企業人権教育協議会の活動状況



このページでは、企人協の平成29年度下期の活動の報告をします。

■本年度下期の取組

第4回研修会(10月27日)

今回は、(公財)兵庫県人権啓発協会人権講師の高田光裕さんにお越しいただき、「インターネットと同和問題と私たち」と題した講演を聞かせていただきました。

講演では、同和問題についてさまざまな視点から事例を挙げながらわかり易く話をされ、ケガレの問題やひとの行動様式(Yllax)、ボトムアップとトップダウンの知性等、とても興味深い内容でした。そんな中で、「差別はいけな」とわかっている、何が差別と分かっているから繰り返しの問題が起る」という講師の話は、啓発担当者として肝に銘じておきたいものでした。

また、アンケート結果を

みると、90%以上の参加者が講演内容を高く評価しておられました。参加者の感想には、この問題の核心に触れるものがたくさんあり、今後の研修にいかしていきます。

【参加者感想】

○自分が思っている差別とは何か、改めて考えさせられた。理解することの重要性、特定の認識だけではだめだと思った。(20代男)

○人権問題と一言に言っても、その対象はとても幅広いことが分かった。友人に女性が恋愛対象の女性がいるので、LGBTについても学んでいく必要があると思っている。同和問題については、あまり意識したことがなかったが、祖父(他県在住)が「ここは部落の人間の家だから」「祖母と結婚するとき、身元調査をした」と言っていたのを思い出して、いまだに差別意識が根強くあるのだと感じた。(20代女)



○今までの講演で聞いた内容とは違い、現在に沿った形での問題や、学んでいくべき内容等がわかりやすくと感じた。(40代男)

○差別はいけないとわかっていても、何が差別かを理解する大切さを感じた。たとえばわかり易く、理解が深められた。(40代男)

当日は、真冬を思わせる寒さで、参加者も32名と大変少ない状況でした。企人協主催の研修会は、近年、参加者が減少傾向にあります。さまざまな要因が考えられますが、企人協の設立の原点に立ち返って、会員企業に積極的に研修活動に参加していただけるよう事務局としての働きかけを強化していきたいと思っています。

一方、9月に企人協主催で市民公開講座を開催し、多くの方々に参加いただきました。

管外研修(11月10日)



講話では、館職員の大原さんに「自分と被差別部落との関わり」について話していただきました。大原さんは、同和問題に対して自身がもっていた無知さ、偏見をあらさまに出しながら、歴史館周辺の地域の実情と住民の思い、そして、自分と家族のことを熱く語られました。その中で、「いくつになっても人は変われる。当事者にはなれないが、当事者に寄り添える人にはなれる。」との講師の言葉が、参加者の胸にしっかりと刻まれました。

【管外研修とは】

加東市人権・同和教育研究協議会、加東市企業人権教育協議会、そして、社人権擁護委員協議会加東部会の三つの団体が、毎年秋に合同で近隣府県の人権ゆかりの地を訪ね、人権問題について学習している研修のことです。

お誘いとお願ひ

未加入の企業・事業所の皆様、ぜひとも、加東市『企人協』にご加入ください。加入申込は企人協事務局(人権教育課)まで

TEL 43-0544



幼児期人権教育事業

親子セミナーを実施しました！



参加者の皆様から
高評価をいただきました。
ご参加ありがとうございました！

加東市教育委員会人権教育課では、平成28年度から幼児期人権教育事業を進めています。絶対人権感覚を育成するための「みんな、たいせつ」プログラムを実践する親子セミナーは、これまで、のべ10会場で実施し、205組の親子が体験しました。

絶対人権感覚とは神戸大学の鈴木正幸名誉教授が提唱された理論です。鈴木教授が出席した学生の中に、ピアノのどのキーを叩いても、また、2、3個の音を重ねても正確に音を言い当てる「絶対音感能力」の持ち主がいたそうです。その学生の身体の中には、音の高低を測る「ものさし」が備わっており、考えるのではなく音が鳴ると同時にその「ものさし」が反応し音を言い当てたそうです。

この絶対音感能力は、特殊な



セミナーの様子

才能ではなく、どの子でも身につく可能性がありますが、学習の時期が大切で、絶対音感が身につくのは4、5歳までと言われています。

絶対人権感覚は、弱い者いじめをしないとか他人の陰口を言わないことなど、やってはいけないこと、絶対に許されないことを知識としてではなく、感性として身につけていることです。幼児期は、心の仕組みを育むための最適な時期であり、この時期に植え付けられた感性は生涯消えないと言われています。

絶対人権感覚が発達した子どもを育むため、親子のつながりを豊かにするための実践的なプログラム「みんな、たいせつ」

を使用し、平成28年度から指導者養成セミナーと親子セミナーを実施しています。子どもの「相手の気持ちに立って考える能力」や「問題に直面した時にそれを乗り越え、解決する能力」を身につけるために重要な自尊感情（自分が価値ある存在であると感じる感性、互いを尊重し合うことが必要であると感じる感情など）を育てることで、「おもいやり」や「いたわり」の心を育み、人権を尊重できる子どもを育てることを目指しています。

平成28年度の満足度アンケートによると97%の方が満足と回答いただきました。今年度は昨年度を上回る98%の方に満足と回答いただきました。参加者からは、「本人の気持ちをくみ取りながら聞くという、今日教えて頂いたことをやってみようと思います。」「子ども一人一人違って当たり前、その子に応じた接し方を心がけていきたいと思っています。」「との声をいただき、どの会場でも好評でした。今後、絶対人権感覚を身につけた子どもたちの育成と保護者への啓蒙と支援を継続していきます。」

【参加者の感想（抜粋）】

子どもに自分の理想を押し付けようとしていたので、今日のセミナーの内容を聞いて、もっと甘えさせてあげたり、話を聞いてあげたりしていった方が、いいだろうと思えました。家でも実践しようと思います。

今日は、とても楽しく参加できました。今のままの子ども達をいっぱい愛してあげたいと思いました。「昔はお腹の中にいて、出てきてまだ3、4年。できなくて当たり前。」という言葉が良かったです。ありがとうございます。親の立場から子どもを見てしまふことが多かったことに、今日気がつきました。子どもの立場にもっと立っていかれたらと思います。



講師の中本久美さん

新着DVDのご紹介

兵庫県・(公財) 兵庫県人権啓発協会企画、東映株式会社制作の人権啓発DVD「あした咲く」の紹介をしましょう。

この作品には、生き方の異なる姉妹が登場します。独身会社員の妹・茜と、専業主婦の姉・翠。それぞれの立場ゆえの悩みや葛藤を抱えています。姉妹での対立や、父との対話、そして地域の人びととのふれあいを通して、別の視点や価値観に気づいていきます。「幸せ」の形は十人十色



【女性が輝く社会の実現】

です。自分で自分の生き方を選択し、女性はもちろん、すべての人が「自分の花」をイキイキと咲かせることのできる、多様性尊重社会。その実現をめざすきっかけとなる人権啓発ドラマです。

【あらすじ】

外食チェーンのお客様相談室で働く風間茜は、父の稔と二人暮らし。ある日、東京で専業主婦をしている茜の姉の翠が、娘の葵を連れて突然帰ってきた。家事と子育ての大変さを語る翠に対し、「専業主婦はまだ気楽でしょ」と口走る茜。その言葉をきっかけに二人は口論。風間家に気まずい

空気が流れる。

……

休日。わだかまりを払うべく、茜は翠を誘って外出し、話を聞き出す。翠は家事に非協力的な夫・健太郎からの心ない言葉に深く傷つき、家を出てきた。自分にはない視点をもつ翠の話を聞いて、視野の狭さを痛感する茜。二人が帰宅すると葵が健太郎に電話をかけていた。娘にも辛い思いをさせていたことに気づき、ショックを受ける翠。

明るくて太らかだった母のようににはなれないと落ち込む茜に、稔は保管していた離婚届を見せる。仕事人間だった稔の自分勝手な言葉に傷ついた姉妹の母・多佳子はかつて離婚を考えたことがあったというのだ。

……

翠と稔との対話や、地域の活動に触れたことで、自分の視野の広がりを実感した茜は、会社に新たな提案をする決意をする。そして、翠もまた夫と向き合うために行動を起こして……

【学習のねらい】

○すべての人が、性別に関わりなく、互いに人権を尊重し、喜びも責任も分かち合いつつ、その個性と能力を十分に発揮できる共生社会をめざすために、私たちが日常生活の中で心がけることを考える。

○子どもの育成のために地域として、より一層安心して子育てできる環境づくりをするために必要なことについて考える。

○多様性を尊重し、互いに人間としての共通性を再認識し、排除せずに人と人とのつながりの大切さについて考える。

(この記事は、DVD活用ガイドから転載しています。)

平成30年度、各地区の住民学習会で鑑賞していただく予定にしています。

DVD・図書は貸出しできます。お申し込みは、教育委員会人権教育課まで。

☎43-0544

登録されていますか？ 本人通知制度！

代理人や弁護士などの第三者が、住民票の写しや戸籍謄抄本などを取った場合に、本人に知らせる制度が「本人通知制度」です。不正取得の発見につながります。通知を希望する人は事前登録が必要です。登録手続きをしましょう。

※市ホームページから詳細をご覧ください。

(<http://www.city.kato.lg.jp/kurashi/shoumei/1457747690849.html>)

【お問い合わせ】市民課(庁舎1階) ☎43-0390

身元調査だけでなく、車庫証明の不正利用(いわゆる「車庫とばし」)にも使われることも! 「ひとごと」じゃないですよ!



発行

加東市教育委員会
加東市人権・同和教育研究協議会

〒673-1493

兵庫県加東市社50

TEL 0795-43-0544 FAX 0795-43-0559